

令和7年度第2回下田市総合教育会議 会議録

開催日時： 令和8年1月28日（水）15時30分～16時30分

場 所： 下田市立中央公民館 大会議室

出席者：

【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	山田 貞己
教育委員	宮川 大輝	教育委員	宮内 慎也
教育委員	西川 紀栄	教育委員	佐藤 知佐子

【事務局】

学校教育課			
課長	平川 博巳	参事	宇仁 猛
学校教育係長	稲葉 元紀	主事	須田 翔悟
教育DXアドバイザー	吉田 裕哉		
生涯学習課			
課長	増山 順一郎	図書係長	鳥澤 早斗子
企画課			
課長	平井 孝一	企画調整係長	鈴木 浩之
主事	藤原 佑紀子		

傍聴者： 報道関係3名

1 開会 15:30

2 あいさつ

・市長

今日の3つの議題は、いずれも大切な話である。ぜひたくさんのご意見をいただきたい。

・教育長

秋山選手の野球教室から、葉山町とのサッカー交流や上智大学と交流授業など、様々な交流活動があり、1月だけでも子どもたちが成長するきっかけがある。そんな子どもたちが話題となる会議なのでよろしくお願いしたい。

3 議題

【議題1 下田市総合教育大綱（案）について】

■説明（教育委員会学校教育課 宇仁参事）：

昨年9月30日の総合教育会議において提示した案を基に、令和8年度から令和12年度までの5年間を対象とする下田市総合教育大綱（案）について、国・県・市総合計画との整合を図りつつ、「好きを深める」「地域ぐるみで教育に参加する」ことを柱とし、子どもにも市民にも分かりやすい構成とした。

■質疑、意見等

・佐藤委員

前回案と比べ、子どもにとって分かりやすい言葉やイラストが使われ、全体として見やすくなった。下田らしさや地域とのつながりが視覚的にも伝わる構成になっている。

・宮内委員

前回案の教育理念は「志高く」であったが、児童には難しいかと感じる。

「好き」という言葉を大切にしている点が印象的であり、子どもたちが学校を前向きに捉えるきっかけになると感じる。また、下田に赴任される先生にも地域や学校を「好き」になってもらいたい意味合いとしても良い。

・宮川委員

写真によって、言葉がなくても趣旨が伝わる点が良い。

・西川委員

前は漢字が多く固く感じたが、素敵なまちだと思えるデザインになった。

・教育長

委員の意見を踏まえ、子ども・市民・教職員いずれにとっても分かりやすい大綱となるよう工夫した。

・市長

社会全体が急激に変化し、地球環境問題、国際情勢、デジタル化の進展など多くのリスクを抱える中で、子どもたちをどう育て、守っていくかという視点も重要である。そうした時代背景を象徴するキーワードを、どこかに盛り込むことも一案ではないか。また、「好き」を大切にするというメッセージは非常に重要であり、表現方法についても工夫の余地があると感じる。

・教育長

「好きを伸ばす」ことは、子どもの土台をしっかりと育てることにつながり、結果として困難な時代にも対応できる力になる。下田の自然や地域の力を生かしながら、その方向性を大綱で示していきたい。

・企画課長（司会）

本日の意見を踏まえ、表現等については事務局と教育長で整理した上で、パブリックコメントを実施し、最終決定に向けて進めることとする。

【議題2 図書館複合社会教育施設の整備について】

■説明（教育委員会生涯学習課 増山課長、鳥澤図書係長）：

・生涯学習課長

現図書館は昭和51年建築で老朽化が進んでおり、耐震性や機能面に課題がある。これまでの検討経過として、令和元年度以降、庁内検討委員会、有識者意見、市民ワークショップ等を重ねてきた。財政状況等を踏まえ、短期的かつ現実的な整備方策として、中央公民館との複合化による図書館整備を検討している。

・図書係長

資料に基づき、現図書館および中央公民館の概要、複合施設として想定する機能、整備における重点事項、今後の想定スケジュールについて説明。令和10年度中の開館を目標とし、段階的に基本構想・基本計画・設計・工事を進める。

■ 質疑、意見等

・ 市長

スケジュールや検討段階について、今後どの段階で意見を求められるのかを明確に示してもらえると議論しやすい。

・ 生涯学習課長

現時点では経過報告が主であり、今後、基本構想・計画案がまとまり次第、改めて意見を伺う場を設けたい。

【議題3 下田市における教育DXの推進】

■ 説明（地域活性化起業人 教育DXアドバイザー 吉田 裕也 氏）：

地域活性化起業人として、教育DXアドバイザーの立場で、市内小中学校を中心に支援を行っている。

この1年半で、授業支援、ICT活用相談、Google Workspaceの活用支援、オンライン授業や全国学力調査のオンライン対応など、様々な現場に関わってきた。各学校の先生方からは、Excelの使い方やロイロノートの活用など、具体的で実務的な相談を多くいただいている。

取組は大きく7つの分野に整理して、主に学校間連携と具体的な授業実践の部分を中心に説明。ICT環境が整備されたことで、実証的な取組が可能になった一方、セキュリティ面の課題もあり、現在はポリシー整理や安全対策にも取り組んでいる。

また、デジタルを活用した学習記録や通知表作成支援、AIを活用した文章チェックなど、教員の業務負担軽減と教育の質向上を両立する取組も進めている。

■ 質疑、意見等

・ 佐藤委員

この1年半で、先生方の関心や取組が確実に広がっていると感じる。吉田さんへの質問も幅広くなり、先生方は子どもたちの励みになるようDX化を上手く利用していると感じた。

今後は、各学校の具体的な実践事例を共有することで、子どもたちの意欲向上にもつながると思う。

・ 宮川委員

分からないことをすぐに相談できる体制はとても心強い一方、デジタルが得意でない児童生徒や教員もいる。アナログとのバランスを意識しながら進めてほしい。

・ 教育長

セキュリティ面については特に重要だと思う。便利さと安全性の両立を丁寧に進めていただきたい。

・ 市長

市全体のDX推進においても、高齢者をはじめ、デジタルに不慣れな市民への支援が課題ある。学校での取組が、将来的には地域全体のDX推進にもつながるよう、工夫していければと思う。